

【道徳講話より】

7月15日(火)6校時、道徳講話を行いました。講師は、昨年度までPTA会長をしておられた川嶋寛巳さんです。「あきらめない気持ち」というテーマでお話をしてもらいました。「生きる」や「感謝」について改めて考えさせられました。川嶋さんには、お話を通信にしてもよいことの許可を得ましたので、保護者の方にも貴重なお話をいただいた資料の内容も加えながらお知らせしたいと思います。

○自分の学生時代の話○

- ・親もとを離れ他県の高校や大学に進んだ。親のありがたみや母親の優しさなどに気づいた。両親には感謝の気持ちでいっぱいになる。

○自分が家族をもって○

- ・父親になり我が子を思う親の気持ちが理解できた。子どものためにとPTA活動に積極的に参加した。たくさんの友人や仲間にも恵まれ、自分のためにもなっていた。

○大病を患って○

- ・昨年の夏に体調を崩して緊急入院をした。がんのため肝機能が低下し余命宣告を受けた。抗ガン剤療法による治療を告げられた。
- ・ショックを受け、死への恐怖感が募った。妻や子どもたち一人一人への愛おしい気持ちが強まった。
- ・抗ガン剤療法に打ち勝つ体力を維持するために、食欲不振で食べなくなかったが、病院給食を本気で食べることを大事にした。

○妻と家族に感謝○

- ・妻は毎日のように病院に来て付き添い看病してくれた。休職してまで抗ガン剤治療の時は一晩中いてくれた。こんなにありがたいと思ったことはない…感謝です。
- ・子どもたちも不安を抱きながら家事を

頑張ってくれた。おかげで妻も時間をつくって病院に来ることができた。

今まであたりまえにしていた全てのこと、些細なことが、一つ一つ自分にとってかけがえのない大事なものであることを…家族みんなに心からありがとう。今後も死ぬまでよろしく！

- ・この3カ月、命とは？家族のありがたみ、妻のありがたみと感謝、家族の絆…などをゆっくり考え直すことができた、貴重な時間となったことは神様に感謝する。
- ・大病で一度死を覚悟・意識してからは人生観が一変した。今まで日常的になんでもないあたりまえのことが、素晴らしいと思えたり、愛おしく感じたり、大切に思えたり…、日々、感謝の気持ちが…物質的なモノより精神的な絆がどれだけ大切かが…朝起きた瞬間生きていることが嬉しくなったり、そして感謝…。

○目標をもって行動○

- ・治療はしているが、がんはなくなっていない。生涯がんにつきあっていたいかなくはない。そこで、目標をもって頑張るようになった。
- ・‘家に帰りたい’‘家族と一緒に過ごしたい’という気持ち(目標)が、治療に効果を与え、退院、在宅医療ができるまでになった。
- ・人生いろいろあるが、どんな苦難、苦境にも小さくてよいから目標をもって取り組むことが大事である。
- ・「三中祭→年末年始→息子の卒業式」と目標をもち、趣味の「釣り」までできた。宣告された余命を大幅に超え1年が経とうとしている。
- ・夢をもち、目標を決め、決めたら絶対あきらめずに頑張ることが大事。自分の今は、それを支え励ましてくれた妻、家族、仲間、友人のおかげである。